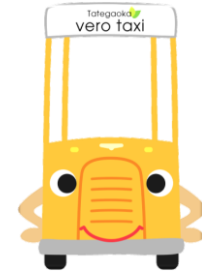
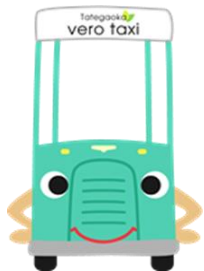


八王子市館ヶ丘団地 自転車タクシーの取り組み

これは人を運ぶ乗り物ですが、人をつなぐ乗り物でもあります



〈館ヶ丘団地について〉

昭和50年入居開始

【館ヶ丘団地全景】



【八王子市】



【東京都】



居住区の
殆どが
傾斜地域
坂道階段多し

おとなりには
高尾山

面積は
東京ドーム
約6個分

丘陵地帯を造成
した土地柄から
団地と隣接した
居住区がない



館ヶ丘団地の高齢化率、八王子市との比較

※平成23年はふらっと相談室開設年度のデータ

○八王子市

人口：562,036人

うち、高齢者人口：147,768人（高齢化率 26.29%）

平成23年は20.9% 6.2% ↑

○館町

人口：11,700人

うち、高齢者人口：3,614人（高齢化率 30.88%）

平成23年は24% 6.88% ↑

●館ヶ丘団地

人口：3,208人

うち、高齢者人口：1,762人

（高齢化率 54.92%） 平成23年は38% 16.92% ↑

館ヶ丘団地の高齢化率は、毎年市内の大規模集合住宅ではほぼ1位

出典 八王子市人口統計平成30年3月末日年齢別人口
主な団地別人口

八王子市シルバーふらっと相談室館ヶ丘は、市の委託を受けて八王子保健生活協同組合が運営しています。

【平成23年5月31日市のモデル事業としてスタート】

ふらっと相談室が担う大きな3つの役割

ふらっと相談室はコミュニティの高齢化による課題を多く抱えた館ヶ丘団地の高齢者支援を目的に設置されました。

①高齢者の実態把握

アセスメント実施(訪問・来所)



個人と地域の実態を把握し、課題を解決する

②高齢者の見守りネットワークへの参加を支援

- ・地域資源(自治会・老人会等)への参加を支援
- ・地域資源を活用した見守り体制の構築



孤独・孤立の予防

③在宅高齢者、家族等からの相談窓口

地域のワンストップ窓口として高齢者やその家族、隣人、知人からの相談をうける

- ・解決策の提案
- ・情報提供
- ・紹介(社会資源等)
- ・話を聴く

八王子保健生活協同組合について ①

はちせい(八王子保健生活協同組合)は医療・介護・福祉の生協です

組合員数7,125名 八王子市西部に15の地域支部があり、医療・介護事業、組合員同士の助け合い活動を行っています。

平成30年9月30日現在

事業概要

病院	城山病院
診療所	はちせい健友クリニック
在宅事業部	15事業所
生活支援活動	5事業



ふらっと相談室、自転車タクシーそのどちらにも、生協の理念「地域での助け合い」が活かされています。



八王子保健生活協同組合について ②

在宅事業部 15事業所

高尾地域	居宅介護支援事業所たかお、城山みなみ訪問看護ステーション
東浅川町地域	八王子市高齢者あんしん相談センター高尾(市委託事業)
館地域	八王子市シルバーふらっと相談室館ヶ丘(市委託事業)
元八王子2丁目地域	小規模多機能事業所 快杜 いきいきラウンジ爽杜 城山訪問看護ステーション
元八3丁目地域(病院併設)	地域リハビリテーションセンター 訪問リハビリテーション結生
川町地域	城山介護サービス 城山24時間サービス D-festa高尾
叶谷地域	居安宅介護支援事業所だいらく 福祉用具サービスこもれび
榎原地域	小規模多機能サテライト悠杜

生活支援活動

生協組合員同士の助け合い活動

花束の会	ドアからドアの会	(移動支援)
いきいきらいふの会		(家事支援など)
かじやしき、城山いこいの場		(通いの場)



自転車タクシー導入の背景

独居高齢者が多く暮らす団地

相談室には開設早々多くの相談が寄せられました。その多くが生活上の困り事でした。

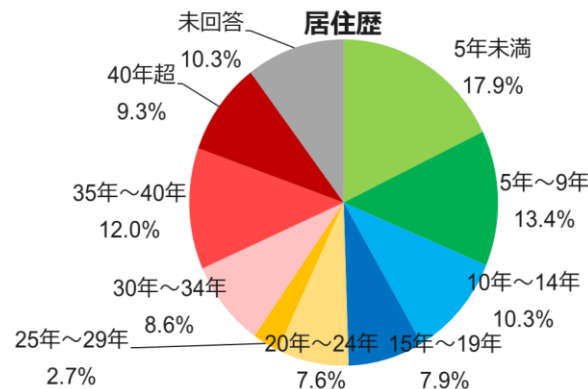
なかでも**団地は坂や階段が多くて、買い物や通院が辛い、出来ない**といった声は大変多く寄せられました。

また、丘陵地を造成した団地ならではの**傾斜地の多い環境は、外出困難や高齢者の引きこもりの誘発因子**となり、その最悪の結末が**孤立死**であり、年間数件の**孤独死**が地域に暗い影を落としていました。



H23年相談室が開設した頃、商店街もどこか殺風景な印象

【館ヶ丘団地住民の居住歴】



平成28年度東京都ホームタウンプロジェクトより

【団地住民の実態】

開設40年が過ぎた団地であり、高齢者の多くは長く住んでいる人たちと思いがちだが、実は開設当初から住んでいる人は1割に満たない。一方で居住歴20年以下の住民が6割を占めている。また、URによると入居者の年代で最も多いのは60代と言われている。当時、市が指摘した団地住民同士の**関係の希薄さ**がそこからも垣間見える。

自転車タクシー導入の経緯 ①

「先日紹介して頂いたあの乗り物、よろしければ補助金の申請してみませんか？」
平成24年夏、突然信じられない話が舞い込んできました。

ふらっと相談室

団地を管理運営するUR都市機構
に団地住民の移動困難を訴えた。

UR都市機構

後日、平成24年度「都地域支え合い体制づくり
事業」補助金の申請をふらっと相談室に提案。

あの乗り物



相談室内に掲示していたこの写
真をきっかけにURの職員さんに
地域の現状をお伝えしたことが
導入のきっかけでした。

補助金申請条件

地域住民組織であること

⇒ 主体が住民組織であることが条件

住民同士の支え合い互助活動であること

⇒ 高齢者の見守り事業の目的に加える

ふらっと相談室 ⇒ 団地自治会

自転車タクシー導入の提案を自治会へ行う。

Point! ふらっと相談室は日頃の業務から、団地の高齢者の現状とニーズを客観的に把握しており、データも揃っている。

これまでに集まったデータを携え自治会に導入を提案 ⇒ 協働で導入を進めることが決定!!

いざ申請!

自転車タクシー導入の経緯 ②

申請～運用に向けた準備

1台あたり85万円、2台の自転車タクシーを補助金で購入決定

自転車タクシー導入に向けた役割分担の概要

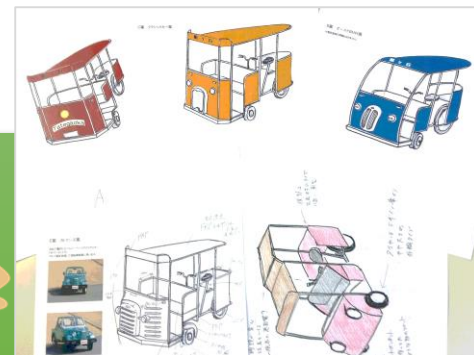
UR都市機構

…申請に向けた書類準備、事業主体である都所管部署との連絡調整

自治会、ふらっと相談室

…具体的運用の検討、見守り活動の具体化、団地住民への周知、担い手探し、警察への相談、申請書作成(相談室が担当)

製造メーカーとのやりとり(デザイン、設計、高齢者を乗せた際の安全性)



【2つの大きな課題(…)と具体的解決方法(⇒)】

ドライバーの確保

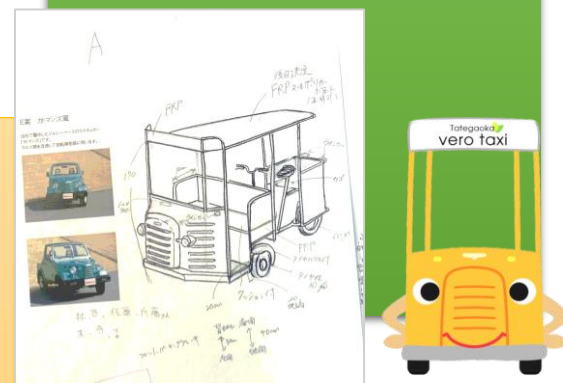
…高齢者の多い団地でどうやって担い手(漕ぎ手)を確保するか

⇒住民の他、すでに相談室にボランティアに来ていた大学生に漕ぎ手を依頼。

高齢者の見守りとの連動

…自転車タクシーに乗ることをどのように見守りにつなげてゆくか

⇒月に1度乗車履歴を検証。履歴のない人のお宅をふらっと相談室が安否確認。



メーカーのアドバイスを受け、デザインは自治会と相談室で検討、高齢者が安心して乗車できる形について再三議論を重ねた。

平成25年5月 自転車タクシースタート！

大切なのは試行錯誤、そして協力

課題克服に向けた取り組み① ドライバーの確保

～主な漕ぎ手～（基本的には曜日ごとに役割分担）

- ・自治会会員
- ・日頃からふらっと相談室で活動していた近隣の大学生
- ・ふらっと相談室のスタッフ
- ・奉仕活動先を探していた近くの教会の外国人宣教師 など

ドライバー不足は今も慢性的課題だが、これまで培ってきたチームワークで協力しながら運行。

お迎え行きます。けど、予約はできません！団地内ならどこでも利用可能！



経費は自治会費と募金です。年度によって大きく違うが、経費の大半は修理・メンテナンス代約3～10万円程度？

料金は無料です。でも、タダは嫌だ！という人も多く募金箱を用意しました。

※利用者の多くが、買い物帰りや受診帰りの方々

課題克服に向けた取り組み② 高齢者の見守りとの連動

～自転車タクシーと連動した見守り活動の大まかな手順～

初回利用時に名前、住所、連絡先を確認、利用者名簿に登録

↓
乗車の都度、乗車日誌に利用者の氏名、住所を記録

↓
自治会、ふらっと相談室が合同で月末に1ヶ月分の登録者の乗車履歴を乗車日誌からチェック

↓
1ヶ月の間、乗車履歴の無い方を自治会とふらっと相談室が戸別訪問、安否確認

見守りは原則希望者のみ

自転車タクシーカード

たてがおか

お問い合わせは
館ヶ丘自治会 ☎ 664-8895
ふらっと相談室 ☎ 665-3800

運行は
11:00～15:00
雨の日は運休です

館ヶ丘自治会

自転車タクシーカードの目的
・毎回名前と住所を言わなくて済む(毎回はやはり面倒)
・お迎えに来て欲しい時、連絡先がわかる

単なる輸送手段ではない自転車タクシー

自転車タクシーの取り組みは、人のつながりが、まちを明るく元気にしてくれることを証明してくれました。

平成29年度自転車タクシー運用実績
利用者 約2,500人
ドライバー登録 約15名

これ以外にも地域に様々な効果をもたらしました。

助け合い・支え合い
の象徴

地域のシンボル

高齢者の見守り

何でも話せる移動相談室

高齢者の課題早期発見

高齢者の閉じこもり予防

多世代・異文化交流

ボランティア活動の受け皿

住民同士顔の見える関係作り



自転車タクシーのこれから

大きな2つの課題

・車輛の老朽化の問題

運行から5年が経過、住民の中からボランティアでメンテナンスを引き受けてくれる方も現れるなど、良い面もあるが、車輛の老朽化は深刻な問題。

・担い手の問題

運行開始からボランティアは不足している。ただ、今後は団地住民の高齢化も相まって、担い手集めはますます困難になる可能性が高い。



美大生が描いた館ヶ丘団地
自転車タクシーも描かれています。

今後に向けて

新たな車輛の購入を検討する一方、漕ぎ手の負担も考慮して、自転車タクシーにこだわらず、これまでとは違う移動支援ツールについても模索中です。ただ、今後どういう方法に変わっても、自転車タクシー事業で培ってきた地域住民同士で助け合う・支え合うしくみは変わることはないと思います。そしてどんな困難でも乗り越えると思います。